

2020年度 第4回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2020年8月7日(金) 19時～21時

◇方法 Zoomによるオンライン

◇参加者数 25人

◇内容

1. 優良実践事例の検討

「高度経済成長期の日本と公害」 河野先生

(1) グリコのおもちゃからみえてくるもの 時代を反映したもの

- ・素材がプラスチックになってきている
- ・色がカラフルになってきている
- ・戦争中という時代を反映したおもちゃがある
- ・大正時代(メダル)、戦時中(陶器)、戦後(物資不足)、経済成長期(プラスチック)
→ 高度成長を支えたのがプラスチック
- ・デザインには子どものあこがれ、あこがれさせたかったものが反映

戦時中：兵隊 戦後：ポパイ、アメリカなどの国旗、経済成長期：三種の神器、キャラクター

(2) 戦後

「よかった」でよいのか(バラックの写真) その時代その時代の社会の背景、課題があったはず
戦後の日本の社会の変化を具体的にとらえさせる

工業地帯 軽工業から重工業へ 公害の発生

(3) 高度経済成長の負の側面：水俣病

新潟は発生から裁判まで6年なのに、水俣は13年かかっている。

- ・肥料、プラスチック商品(チッソが生産していた)を歓迎していた市民
- ・家族が罹患しても隠した

企業・水俣市・国家・国民が水俣病を発生させるシステムになってしまっていた

(4) 今の暮らしに目を向ける

水俣病 ー

環境によくないのがわかりつつプラスチックを使い続けている私たち

2. 授業構想案の相互検討

(1) 「パラスポーツって何だろう？」5年生道徳：圓山先生

ボッチャを通してみんなのできることのよさに気がつく

自分たちでもボッチャならできそう。当事者意識

みんなのできるスポーツだ。

手をさしのべるのはハードル高いけど、一緒にスポーツを楽しむのなら、できる。

ユニバーサルデザイン：世代内の公正を学ぶことができる

中村裕医師のボッチャの思い 共生社会

(2) 「平城ニュータウンの未今昔」中村先生

様々な世代が住みたいと思う街づくりを考える

どのような街づくり双六をゴールとして設定しているのか。

新しい街づくりのコンセプトとして、他の地域のコンセプトを参考にしたらいい。

双六にこれからの街にとって必要なコンセプトが込められているので、それを地域の人とすることで、街づくりの必要性を訴えることが行動化になる。

「終焉」を中心について再検討　そうじゃないだろう　じっくりこない

ニュータウンに持たせたい多様性を考える

現在の住民の意見を聞くのもいい。地域の人が現在している街づくりを調べよう。

実践を通して「街づくり」は誰かにしてもらうことではなく、自分たちでやっていくものという意識化ができる。

(4)「カブトムシのわなを作ろう」3年生理科・総合：春日先生

- ・わなづくりから昆虫の生態に迫る。そこから昆虫にとっての住みやすい環境を考え、環境をつくらうへ。
- ・単元の目標を明確に・・・①探究的な活動を体験させる　②生き物同士のつながり、循環など
- ・昆虫だけでなく、昆虫と人とのかかわりにも着目してはどうか
- ・核となる教科を設定した方が目標が明確になる。
- ・環境づくりにもっていくストーリー性が必要だ。
- ・生き物同士のつながり・生態系にも視野を広げていくといい。

(5)「まちたんけん」2年生生活科：三木先生

①生活科における地図指導のしかた

- ・GoogleEarsでまちたんけん　3D（ストリート・ビュー）で見つけたものを地図にペットボトルキャップで表す（毎朝10分）
- ・地図が埋まってきたら、実際に歩いて確かめてみる。
- ・都跡のすてき教えて地図の作成（イラスト・文章）　生き物など　地域への愛着

○地図にこだわらなくてもいいのでは。面や線より点でいいのでは

○2年生段階で空間的理解の難しさ。テーマを与えてストリートビューさせると気づきも多いのでは。

②コロナ禍での人との出会わせ方

教師が写真・動画で撮影して紹介する　その後どう展開していけばいいか

○子どもの気づきが大切だ。実物にふれさせたい。

○実際に歩いてこそ、学びがある。行けないと話にならない。

○他の教員に手伝ってもらって、少人数で行けないか？